

## 特集

宇野議員・村上議員が聞く

地元の人・学生・観光客が

笑顔で繋がる Mio Cafe Takehara

## 多世代が集う憩いの場



▲店内の様子

Q どのようなコンセプトのカフェですか？

「Mio Cafe」とは、イタリア語で「私のカフェ」という意味を持っています。さらに、「M（みんな）」「i（いつでも）」「O（おいで）」という温かい思いも込められており、社会福祉法人的場会在運営する、地域に開かれた居場所」をコンセプトにしています。

世代や立場を問わず、誰もが気軽に立ち寄れる場所を目指しており、店内にはケアマネジャーの相談窓口も併設されているため、日々の困りごとを気軽に相談できるのが特徴です。また、竹原駅前商店街に人の流れを生み出す「入口の拠点」として、観光客と地域の方々が繋がりを作る場所でありたいと願っています。

Q 店内にある『竹原マップ』にお客様のコメントを集めようと思ったきっかけは何ですか？

竹原には観光ガイドには載っていない、地元の方だからこそ知っている魅力がたくさんあります。

観光で訪れた方の目線から、地元の私たちが気づけなかった竹原の魅力を教えてもらうこともあります。

お客様一人ひとりの「お気に入り」を集めることで、スタッフ自身も知らなかった竹原の新たな姿が見えてくるだけでなく、お客様の会話が弾むきっかけにもなっています。訪れるたびにこの地図が育っていくのも、楽しみの一つです。

お話を聞いた人  
向田 時典さん



▲人気メニュー 桃とミルクのかき氷

**Q** 特に人気のあるメニューや、地域ならではの食材を使ったこだわりのありますか？

人気メニューは、東広島市福富町の自然農法牧場「Cadore(カドーレ)」が手がけるジェラートやチーズケーキで、なかでもワッフルジェラートが特に好評です。  
また、同じ社会福祉法人の仲間である瀬戸田「ボナプール」のはっさくやレモンを使ったソーダも人気で、この夏からはフラッペの提供も始めました。

**Q** これからMioカフェを、どんな場所にしていきたいか、今後の展望を教えてください。



▲ボードゲームイベント

開店にあたっては、駅前商店街、竹原市、経済産業省をはじめ、伴走支援に携わった企業や大学など、産官学と地域の方々が協力し、コンセプトづくりからデザインまで多くの力を寄せてオープンすることができました。  
今後はその期待に応えるべく、さらに世代を超えて人と人が繋がれるよう、イベントや交流の機会を増やしていく予定です。  
町並み保存地区を訪れる観光客やインバウンドのお客様が商店街に立ち寄るきっかけを作り、街全体の賑わいに貢献することを目指しています。  
的場合が大切にする「WELL-BEING(心豊かな暮らし)」の姿勢をカフェという形で体現しながら、地元の方にも遠方の方にも「また来たいくなる場所」であり続けたいと考えています。

**Q** お店を開く上で『居心地の良さ』として特にこだわっている部分はどこですか？

電車やバスの待ち時間に利用される方も多く、初めての方でもふらっと入りやすいよう、外から店内の様子が見えるオープンな外観にこだわっています。  
店内は木や土のぬくもりが感じられる落ち着いた雰囲気、ゆったりとくつろぎたい方にも心地よく過ごせる空間を意識しています。  
また、近年増えている海外からの観光客にとっても、言葉が通じなくても安心して自然体でいられるような雰囲気づくりを大切にしています。



▲和菓子作りイベント